

plan to do …する予定である, …するつもりだ promise to do …すると約束する  
learn to do …の仕方を覚える, …する（できる）ようになる

**希望・願望・必要**

hope to do …することを望む  
need to do …する必要がある  
wish to do …したいと思う

like to do …したい, …することを好む  
want to do …したいと思う

**原理**

目的語に **to do** をとる動詞には「決定」「予定」「希望・必要」など〈未来志向〉的な意味を持つものが多い。

**注意しよう！ 形式目的語 **it** は省略不可！**

形式目的語を使わないで、次のようには言えない。

✗ I found to reserve a flight on the Internet easy.

これに対し、動名詞では次のように2つの言い方が可能。

I found **reserving** a flight on the Internet easy.

I found it easy **reserving** a flight on the Internet.

不定詞句は前置詞の目的語にはなれないで、

前置詞の後では動名詞を使う。

You can move the cursor **by using** the mouse.

✗ You can move the cursor **by to use** the mouse.

マウスを使ってカーソルを移動できるよ。



**類例 [SVO]**

She wants **to study** art at college.

彼女は大学で美術を勉強したいと思っている。

You need **to be** more patient.

あなたはもっと忍耐強くなるべきだ。



**[SVOC]**

Paul thought **it** almost impossible **to finish** the homework in a day.  
ポールは1日で宿題を終わらせるとはほぼ不可能だと思った。

She found **it** difficult **to put** her idea into action.

彼女は自分の考えを実行に移すのは難しいと分かった。

**類例** a place to live **in** 住む（ことのできる）場所

a knife to cut paper **with** 紙を切る（ことのできる）ナイフ

music to listen **to** 聞くべき音楽

**【!】** 「手段」の with, 「場所」の in, on などの前置詞は省略されることもある。

省略されるのは修飾される名詞の性質によるもので、コミュニケーション上支障のない場合に限られる。

このように使うことのできる名詞は限られるので、迷ったら前置詞をつけておこう。

a place to live

a knife to cut paper など。

cf. Osaka is an ideal place to start a business.

大阪は商売を始めるには理想的なところだ。

## 英語の原理 不定詞の意味上の目的語と主語

「修理すべきコンピュータが非常にたくさんある」と言うときは、次の 2 通りの言い方ができるが、1. の方がよく使われる。

1. There are so many computers **to repair.**

〔computers が不定詞の意味上の目的語〕

2. There are so many computers **to be repaired.**

〔computers が不定詞の意味上の主語〕

**原理** 1. は「…すべき」という〈義務〉の意味。

There are so many computers for us to repair. の意味で使われ、

→ There are so many computers which we should repair. と書き換える。

2. の場合はそれに加えて「…できる」という〈能力〉や〈可能〉の意味で解釈することもできる。

→ There are so many computers which can be repaired. と書き換える。



**類義** 〈in order to do〉 と 〈so as to do〉

「目的」であることをはっきりと表すため（かたく）〈in order to do〉 や（ややかたく）〈so as to do〉 を用いることもある。

元々、to の後に状態動詞として使われやすい動詞が〈目的〉を表すことをはっきりさせるために使われていたが、現代英語ではそのような発想はあまり考慮されずに使われている。〈so as to do〉 については通例、文頭で用いないことに注意。

**In order to** raise money, we have to take positive action. (かたく)

お金を集めるために私たちは積極的な行動を取らなければならない。

✗ So as to raise money, ...

Laura is studying hard **in order to** be a lawyer. (かたく)

彼女は法律家になるために一生懸命勉強している。

Kate woke up early **so as not to** miss the first train. (ややかたく)

ケイトは始発列車に遅れないように早起きした。

否定形については、p.188 を参照。

**類例** I went to the convenience store **to buy** a bottle of water.

私は水を 1 本買うためにコンビニへ行きました。

The doctor needs a private room **to talk** to his patient.

医師は患者と話すために個室が必要だ。



## 3 感情の原因を表す

19 My parents will be *delighted to see you.*

私の両親もあなたにお会いできて喜ぶことでしょう。

20 We were all *surprised to hear that he was successful.*

彼が合格したと聞いて、我々は皆驚いた。

感情を表す形容詞や過去分詞（多くは形容詞化している）の後で、不定詞がその感情の原因を表すことがある。

このような感情を表す形容詞や過去分詞には次のようなものがある。

〈怒りや悲しみなどネガティブな感情〉: angry 怒って, sad 悲しい, sorry 気の毒で、後悔して

〈驚きや失望の感情〉: surprised 驚いて, amazed びっくりして,

disappointed がっかりして, shocked ショックを受けて

〈喜びや満足などポジティブな感情〉: delighted とても喜んで, glad (ありがたく思って) うれしくて,

happy うれしくて, pleased (ややかたく) 非常に満足して,

satisfied 満足して, relieved ほっとして

**類例** I am *glad to hear* that you got back home safely.

君が無事に家についたと聞いてうれしいよ。

原理

to 以下の行為に向き合うと、それが原因となって形容詞や過去分詞で示される感情を持つことになる。

**注意しよう！** 感情を表す形容詞・過去分詞は必須！



この用法の不定詞は、感情を表す形容詞や過去分詞とともに使われることに注意。

✗ My sister began to cry to find that she had failed the entrance exam.

○ My sister began to cry when she found that she had failed the entrance exam. 妹は入試に落ちたと知って泣き出した。

cry は感情を表す形容詞または過去分詞ではないので、後に to do がきてもその原因を表すことができないことに注意。when の代わりに because を使うことはできる。

コーパス この用法で用いられる形容詞には次のようなものがある。

難易

easy (容易な), hard, difficult, tough (難しい)

impossible (我慢ならない, できない) (possible は通例, この構文では用いられないことに注意)

安全・危険

safe (安全な), dangerous (危険な)

〈快・不快〉など

comfortable (快適な), convenient (都合のよい), unpleasant (不愉快な),

boring (退屈な), pleasant (親しみやすい, 好感の持てる),

good, nice (親切な), cheap (安価な), expensive (高価な)



類例 He is *impossible to work with*. 彼と仕事をするのは我慢ならない。

→ It is *impossible to work with him*. 彼と仕事をすることはできない。

These streets are *dangerous to walk around* at night.

この通りで夜間に歩くのは危険だ。

That plan is *difficult to accept*. その計画を受け入れることは難しい。

→ It is *difficult to accept* that plan.

× You are difficult to accept that plan.

## 注意しよう！ 人主語はダメ！

これらの形容詞では人を主語にすることはできない。

- ✗ We were impossible to catch the bus.
- ✗ I was very easy to finish the paper.



## 質問箱 “for + 人”は常に to 不定詞の意味上の主語で「人が」の意味になる？

It is difficult for me to read this book.



1. 私がこの本を読むのは難しい。
2. この本を読むのは私にとって難しい。

1. では，“for + 人”が to 不定詞の意味上の主語という解釈になります。
2. では，“for + 人”は形容詞と結びついて「A にとって」という解釈になります。発音の切れ目は、前者は for A to do の前、後者は to do の前にあります。どちらの意味かは文脈で判断されますが、difficult, hard, easy, tough のように難易を表す形容詞では後者の意味が優勢です。

7

不定詞

一方、27では for の代わりに of が使われている。careless のように〈人を判断・評価する形容詞〉が使われている場合、〈It is + 形容詞 + of + 人 + to do〉で「…するとは〈人〉は〈形容詞〉だ」という意味になる。

読むときは、意味の切れ目が“of + 人”的後にあるため、そこで休止を置く。

この用法で用いられる形容詞は、4「判断の根拠を表す」で示したものと同様なのでそちらを参照のこと（→ p.182）。

27は〈判断の根拠を示す不定詞〉（→ p.182）を使って、次のように言い換えられる。

27' → She was careless to forget to lock the door.

意味上の主語  
理解できた？



**類例** It's very kind of you to show me the way.

道を教えてくださってありがとうございます。

→ You are very kind to show me the way.

It was nice of him to prepare lunch for us.

彼は親切にも私たちに昼食を用意してくれた。

〈for+人+to do〉の形は、主語(S)、補語(C)、目的語(O)として使われている不定詞の意味上の主語を表すために使われることもある。

**For him to be honest** would be very important. [to do が S]

彼が誠実であることが極めて重要でしょう。

[It would be very important for him to be honest. の方が普通。]

**What I want is for you to come back** to me as soon as possible. [to do が C]

私が望むのは、君ができるだけ早く僕のところに戻ってきてくれることだ。

We want (for) **all of you to have** a nice weekend.

[to do が O。この場合は for をつけないことが多い]

私たちはみなさんがよい週末を過ごされることを望んでいます。

以上の不定詞は名詞的用法だが、形容詞的用法や副詞的用法でも意味上の主語を使うことができる。

**There is no reason for you to apologize.** [形容詞的用法] 君が謝る理由はない。

I stepped aside **for the girl to pass.** [副詞的用法]

その女の子が通れるように私は脇へよけた。

**【！】there** が意味上の主語のようにして使われることがある。

**It is important for there to be** a fire escape in every building.

全ての建物に非常階段をつけることが大切である。



### 注意しよう！ It is + 形容詞で that 節をとらない場合

仮主語 it を使った **It is + 形容詞 + for + 人 + to do.** でも、**It is + 形容詞 + that 節** に書き換えできないこともあることに注意。

✗ **It is difficult that I read this book.**

○ **It is difficult for me to read this book.**

同様に、agreeable, cheap, dangerous, **difficult, easy, enjoyable, free, hard** (= difficult), hopeless, pointless, safe, useful, useless なども、通例 **It is + 形容詞 + that 節** の型では用いない。

